

(福)白寿会

垂井町・福祉(介護)

平成29年度
認定

「働き方向上委員会」で、職員の声を元に働き方を改善。プリセプター制度で若手職員の人材育成を行うとともに、ICT介護ロボットの導入で働きやすい環境をつくる。

従業員数/男性34名 女性102名 計136名 ※平成30年4月1日現在



月1回開催する働き方向上委員会では、昨年12月にノー残業デーを施行。リフレッシュ休暇の周知・普及などにも取り組む。

職員主導で職場の働き方改善

白寿会では、職員の経営参画意識と職種間の連携をより深めるため、2016年度から34の委員会を設立。入職3年以上の全職員が各委員会に所属し、その中の一つ「働き方向上委員会」では職員に関する改善提案を行っている。委員会は、業務に支障がないよう30分〜1時間の短時間で実施。多様なシフト

の職員が無理なく出席できるよう、イントラネットによるオンライン会議も取り入れたところ、所定外労働時間を月5時間に抑えることができた。

人材の確保と定着にも力を注ぎ、入職2年目までの職員には、悩みを理解しやすい入職3、4年目の職員が、マンツーマンで業務指導を行うプリセプター制度を導入し、業務はもちろん、不安や悩みの解決もサポートする。プリセプターとして指導する介護福祉士の富田安紀子さんは、「先輩に教えるためには自分も勉強が必要。双方が成長できる制度だと思ふ」と、効果を実感する。また、地元中学生に職場体験で介護の仕事を知ってもら

う社会福祉協議会が実施する「ワークキャンプ」に30年以上協力し、ワークキャンプ参加者が白寿会に就職するなどの実績があがっている。



腰痛予防と利用者の快適性向上を目的に、移乗介護ロボットを導入し、2人で行っていた介助を1人でできるよう改善。

さらに、職員の身体的・精神的負担軽減を目指し、16年にはICT介護ロボットを採用。タブレットにより遠隔で利用者の様子を把握できる見守りセンサーは、30分おきだった定期巡回を3時間おきに削減でき、夜間のベッド転落も防止することができた。今後は追加導入を予定しており、ソフトとハード両面で働きやすい環境づくりを図る。